



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2020年6月6日 No.219

JR社員が業務で受ける「カスタマーハラスメント」

2020年度夏季手当の取り組み ③

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、全社員は「安全・安定輸送」を確保するべく日々奮闘している。そして、現場社員は誰もがウイルスに感染する恐れがある中で「社会を支える」という強い使命感を持って業務を遂行している。これまで経営側はいつも「先行き不透明」と言い続けてきた。しかしその不透明を鮮明にして、ここまで会社を成長させてきたのは紛れもなく、そこで働いている社員である。今こそ社員の労苦に報いる配分をお願いしたい。

学校の臨時休校により、通学定期券の払い戻しが多く発生し、通常時よりも業務量が増え、かつ「密」の中で業務を行わざるを得ない環境であった。その頑張りを知ってほしい。

工事量が増える＝業務量が増える。いくら「システム化」や「効率化」をしても最後は人間がチェックしている。会社は儲かっているときにボーナスを上げなかった。コロナ禍で利益が下がったからといって、ボーナスを下げることに納得がいかない！

日々不安と向き合い働いていても、業務上「越境自粛地域」を往来することにより、医療機関への受診に注文がついたり、人間ドックを受けられなかったり、家族のもとに帰るのをためらわざるを得なかったり、自分自身も共に働く仲間も職場も家族さえも、すべてがまるで否定されるような状況に耐えてきた。まさに最前線で働いてきた社員に報いるJR東日本であってほしいし、納得できる夏季手当の回答を期待する。

不特定多数のお客さまと接しながら、JR東日本の「顔」としての業務を担う駅社員、「特定警戒地域」で業務を行う社員、「緊急事態宣言」発令地域を往来する乗務員、見えないウイルスに不安な中で車両メンテナンスや消毒を行う検修社員、メーカーの生産見直しに伴い計画変更がありながらも「鉄道の安全」を支えてきた設備社員、テレワークになりながらも計画業務を行ってきた企画部門の社員など、JR東日本で働くすべての社員が不安を持ちながらも平時と変わらず力をあわせて業務を遂行している！

社長の記者会見でどれだけの社員が落胆し、傷つき、モチベーションが下がったのかを知っているのだろうか。士気を高めるために満額回答を求めろ！